

コリント人への手紙第一 10 章 1-13 節「脱出の道を備える神」

小池 宏明 牧師

10 章の初めは、前の 9 章 27 節の「失格者」の実例として、イスラエルの歴史の中で、特に出エジプトの時に起こった失敗例を挙げながら記されている。

* 今日への戒めのために

かつて奴隷だったイスラエルの民は、エジプトから解放され、約束の地カナンに向かって荒野を旅して、多くの失敗を繰り返した。例えば、民は欲望に駆られて罪を犯し、偶像礼拝の罪を繰り返した。さらに、淫らな行いによって多くの民が滅ぼされた。また、イスラエルの民の中で指導者のモーセを馬鹿にした者たちが滅ぼされた。このような罪の刑罰が起こったのは、「戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするため」(11 節)である。パウロは、イスラエルの民に起こったことが、世の終わりが近づいている私たちクリスチャンへの教訓にもなると語った。主イエス様の再臨が待たれる今の時代にも通ずる。12 節「**ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。**」ここで「立っていると思う者」とは、本当は倒れそうなのに自分は立っていると思いついでいる人のことを指している。私たちは、自分は大丈夫であると思っている時こそ一番危ないのだ。自分もイスラエルの民と同じ過ちを犯してしまうかもしれないということが分かれば分かるほど、私たちは、主の力と知恵に拠り頼む。主は謙って御自身に拠り頼む者を必ず救い出して下さる。

* 主に頼る者には耐えられない試練なし

13 節「**あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。**」かつてのイスラエルには多くの試練があり、それに負けてしまうことが多くあった。世の終わりの時は、なおさら、さまざまな試練がある。しかし、主にあって堅く立って生きようとする者たちには、主なる神様が必ず脱出の道を備えておられる。また、主なる神様は、耐えることができない試練に遭わせるようなことはなさない。必ず、試練から救い出してくださる。試練に遭うが、それでも必ず救われるのだ。

私たちは、救い出されて洗礼を受けたので安泰である、と思いついでるのではない。荒野の旅をスタートした私たちには、どうしても主なる神様の守りと導きが必要である。今週も、主イエス様に何でも祈って、主を頼りながら、生かされてきたい。